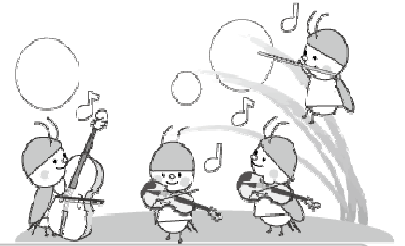


## ☆お芝居大好き！九条の会～テアトル9 って何??

2004年、井上ひさし、大江健三郎等9名の著名人が日本国憲法九条を守る「九条の会」を結成。その呼びかけに応え、演劇鑑賞会の会員有志で2005年「お芝居大好き！九条の会～テアトル9」を作りました。



## 「戦争責任」を考える・・・2013. 10. 26

安倍首相や維新の会の橋本代表が従軍慰安婦問題で発言し、国内外で批判されている。

しかし、多くの日本国民はどう捕らえているのだろうか。家永三郎氏の著書「戦争責任」(岩波現代文庫、2002年発行、初版は1985年7月岩波書店刊行)から考えることにした。

中国残留「日本人孤児」、特高などによる拷問など。日本政府は日本国民に対して責任を取っていない。また戦争を推進してきた個人も責任を免れたものがある。さらに、原爆の投下、人工密集地域の無差別攻撃をおこなった米国や、武装解除したのちに長期間強制労働に服させたシベリヤ抑留を行ったソ連に対しても責任の追及をしていない。

私たち国民が自分自身に対する戦争責任を考えていないことが、日本政府そして推進者の戦争責任の追及をうやむやにしている。だから、岸信介やその孫の安部晋三が内閣総理大臣に就任することを許してしまったのではない。戦後生まれの私にもできることは、著書にある次の言葉が示唆してくれている。

「過去に生じた『戦争の惨禍』は、それが人間の生命と心身とに与えたものについては永久に回復できず、その責任を加害者の処罰や加害国の物質的賠償によって償わせたとしても、失はれた生命や傷つけられた心身を元通りにすることの永久に不可能な以上、もっとも有意義な償いは、将来における『惨禍』の再現を阻止する責務を達成することにあると考えざるを得ない。その目的を果たす努力こそが、戦争責任を自覚するものにとって、最高の償いとなるものと信ずる。」

(G・K)



## 学習会&忘年会のご案内

現在臨時国会で審議中の特定秘密保護法案について・・・

日時：12月15日(日) 14時00分～

場所：サンパル7階会議室

講師：足立(坂本)知可さん(弁護士)

参加費：500円

※終了後、近くのお店で忘年会をします

## 9条世界会議関西2013に参加して(10/14)

西神ニュータウン9条の会のバス(弁当付)

に同乗させていただき、参加しました。

午前中は3つに分かれてワークショップ、

私は「9条ワカモノ☆会議」に。冒頭は「9条

と自衛隊についての若者街頭シール投票」のビデオ。大阪・アメリカ村では、知識はないが話しをすれば素直に「戦争反対」だったが、一方K大学のキャンパスでは「自衛隊は必要悪、改憲もあり得る」の声が多数を占めた。この催しは、20代前後の人たちが企画運営、私でもジェネレーションギャップを感じるような会場の熱気に圧倒され嬉しかった(!)が、彼らは学校では「サヨク」のレッテルを貼られ、話ささえまともに聞いてもらえない事もあるとか。続いて、世界で平和の為に活動する若者3人の生トーク。中でも韓国で「良心的兵役拒否」のため服役していたイ・ジョウン氏の「多様な人が意見を言い、それが抑圧されない文化が必要」との発言は、今の日本の状況と重なりドキッとした。昼からの全体会議では世界各国のゲストが9条の素晴らしさをスピーチ。「Article9は世界の宝！」を国外の方から教えられた。ただ、会場の広さのせい、客席は空席が目立ち(主催者発表5,000人)熱気は思った程ではなく、憲法改悪危機のこの時期に・・・少々不安が残った。

(ぱぱらぎ・大谷紫乃)



## ピースリーディング『核・ヒバク・人間』再演のお知らせ

劇団 どり 作:篠原久美子 演出:合田幸平

福島の前被災地の現状と原発労働者の被曝、劣化ウラン弾の影響、ウラン鉱山で働く住民の思いは?

今なお、止められない原発、もれ続ける汚染水・・・どうするのか日本の課題をつきつける。

2年前に上演し、好評を得、今回再演!!

日時:11月30日(土)14:00、19:00

場所:アートビレッジセンター(新開地)

## お芝居と平和 ③

～ 『人形の家』1946年東芸 公演 ～

「ノラ、ノラ・・・」と言いながら椅子に崩れ折れるヘルメルを後に、ノラは舞台を上手から下手に通り返り家を出て行ってしまふ。その最後のシーンを見て、その頃の私には何の意味だかちつとも解りませんでした。初めて観た新劇、18才でした。

散々な苦勞と困難の中で、やっと外地から引き揚げて祖国へ帰ってきたのが終戦の翌年、1946年(昭和21年)の秋。1947年(昭和22年)の春、5月の連休にその頃働いていた、尼崎の工場で、社員の慰安に、といって、寄席や歌舞伎の券が配られました。私は誰も取り手のなかった新劇の券を貰いました。東芸の『人形の家』です。何の予備知識もなく突然の新劇の舞台でしたので理解できないことが多かったのですが、幕切れのシーンだけは鮮烈に残りました。「何なんだろう、あれは？」

随分と遠回りをしてやっと教職に就いたのは1955年(昭和30年)。それから私の本当の戦後が始まります。大阪労演から神戸労演へ、真の平和の訪れと共に、私の観劇が始まりました。「芝居どころではない！」もうそんな世の中がきませんように。芝居がゆっくり楽しめる世の中でありませうように。

(北町サークル・古橋 新)



### 例会場「テアトル9コーナー」に お立ち寄りください！

テアトル9グッズのプラバン、また賛同者の方には  
ニュースをご用意しています。カンパも大歓迎！

連絡先は

児玉 090-8209-2391

米田 090-8658-8579

谷中 090-2101-4579



## みちのくへの旅



3・11以来、個人的には4回目だが、今回は、車で鑑賞会の会員7人(男性4人、女性3人)で、三泊四日の旅をした。啄木、賢治が学んだ盛岡から、ひなびた秘湯の温泉で二泊。松川温泉には日本で初めての地熱発電所があり、自然に囲まれた再生エネルギー発電の安全性に触れ感銘した。洪民の啄木記念館、冠雪した八幡平、花巻の宮沢賢治記念館を訪れたが、どこへ行っても美しい岩手山が私達について回り、まさに「ふるさとの山はありがたきかな」だった。

民話のふるさと遠野ではガイドに、詳しく案内をしてもらい、民話の奥深さに感動した。遠野から、陸前高田の「奇跡の松」へ行った。宅地のかさ上げ工事で走り回るダンプに砂埃、夕暮れ時に立つ1本の松、淋しさが漂ってきた。

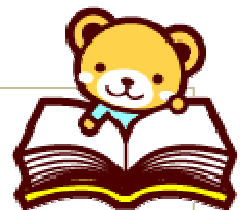
気仙沼で1泊して、翌日はKuさんが震災後、すぐボランティアに行った南三陸の石巻へ。南三陸では、被災者たちが商売する“さんさん商店街”へ行った。仮設で造られた商店街は、地産地消で活気づいていた。元気いっぱいの被災者に語りかけ、たくさんの土産物を買った。

石巻では北上川を下り、たくさんの生徒を大津波で亡くした大川小学校を訪れた。未だ残骸として残っている校舎、その近くに新たに建てられた慰霊塔。慰霊塔には亡くなった地元の人と児童の名前が刻まれていた。名前横に、北上川や太平洋の青い波の歌詞や、大川小学校の校歌も刻まれていた。それを読んでいると、その青い波が凶器となって北上川をさかのぼり生徒たちを襲ったと思うと目頭が熱くなった。

啄木や賢治を育んだみちのく大自然、その自然が荒れ狂い多くの命を奪った。その自然に向き合っただけのみちのくの旅。復旧、復興への道のりは遠く、「みちのくの春はまだ」を感じた旅だった。(ちかまつ・米田)

## ～～～ 本の紹介 ～～～

「中高生のための憲法教室」 伊藤 真 著



たまたま書店で見つけたのですが、「中高生のための・・・」とは言え、なんのなんの、おとなの私達もどれだけ憲法を正しく理解しているのかが再確認出来る一冊だと思います。はずかしながら、私自身テアトル9に関わり学習していく中で、憲法というのは「国民が守るべき義務」ではなく、『権力者が守るべき義務』だということを、改めて再認識したくらいですから・・・

中高生だけでなく、「憲法とは何なのか」が、おぼろげであいまいになっているおとなたちにもオススメです。

岩波ジュニア新書 定価(820円+税)